

## 9 浴室のシャワー水について（循環給湯設備）

浴室のシャワー水もレジオネラ属菌に汚染される可能性があります。

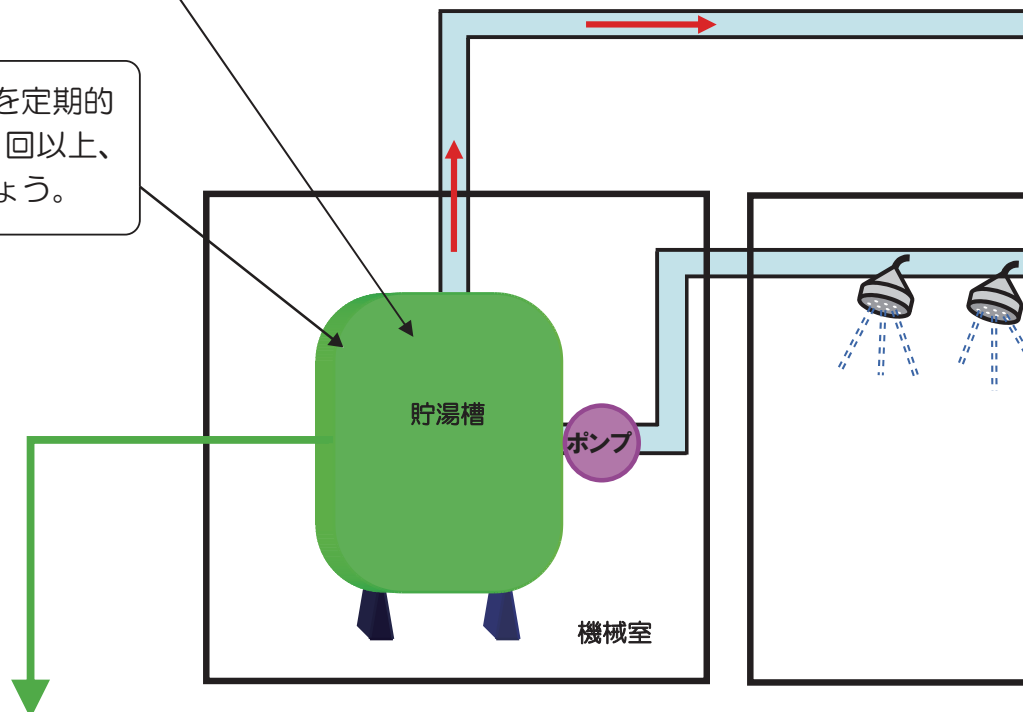
機械室にボイラーや貯湯槽があり、そこから浴室や建物全体にお湯を送っています。これを循環給湯設備と言います。

この循環給湯設備は、配管が長いので、レジオネラ属菌が繁殖するおそれがあります。

管理のポイントは、蛇口で、①温度を55℃以上に保つこと、②残留塩素濃度を0.1 mg/L以上に保持することです。

使われなかったお湯を貯湯槽に戻し、再び加温します。

貯湯槽等に滞留している湯水を定期的に排水するとともに、1年に1回以上、貯湯槽等の清掃を実施しましょう。



### 貯湯槽の管理



貯湯槽の外観



貯湯槽の温度は60℃以上にしましょう。

## シャワーヘッドの清掃

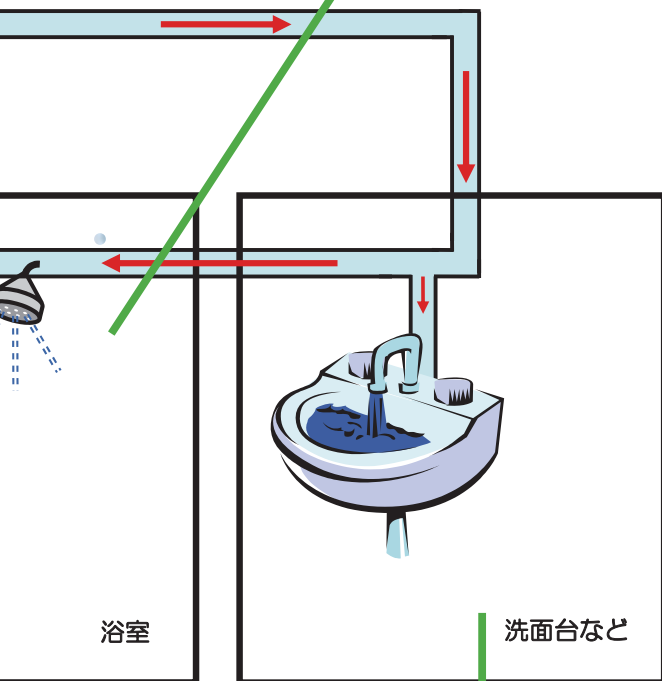
シャワーヘッドも年に2回以上取り外して分解して清掃しましょう。  
シャワーヘッドが原因と考えられるレジオネラ属菌検出事例があります。



シャワー



シャワーヘッドを分解したところ



給湯温度の確認

## 蛇口の管理

レジオネラ属菌の増殖を防止するため、

- ① 蛇口から出る湯の温度を55℃以上に保持する
- ② 蛇口から出る湯の残留塩素濃度を0.1mg/L以上に保持する

上記の①か②のどちらかの管理を選択してください。

また、週に1回以上、①の場合は蛇口から出る湯の温度、②の場合は残留塩素濃度を確認しましょう。

## 10 レジオネラ属菌の自主検査

### 自主検査

浴槽水については、定期的にレジオネラ属菌の検査を行い、レジオネラ属菌による汚染がないことを確認してください。

換水の頻度	検査頻度
毎日換水している施設 (使用日ごとに換水)	年に 1 回以上検査
毎日換水していない施設 (週に 1 度換水、週に 2 度換水など)	年に 2 回以上検査

### レジオネラ属菌が検出されたら

**レジオネラ属菌が検出された場合は、速やかに保健所にご相談ください。**

\*レジオネラ属菌が検出された場合は、直ちに浴槽の利用を中止し、清掃、消毒等必要な措置を実施します。

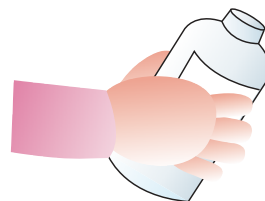
\*再検査によりレジオネラ属菌が検出されないことを確認するまで浴槽の利用再開はできません。



レジオネラ属菌が検出されたら、保健所に相談してください



改善作業の実施（設備の清掃・消毒など）



再検査の実施

# 1 1 設備と管理を確認しましょう

あなたの施設の設備と管理の状況を確認しましょう。該当するものに○を付けてください。

年 月現在

施設名 \_\_\_\_\_

記録者 \_\_\_\_\_

## 一般浴槽の設備

浴槽名	ろ過器	追い焚き機能	ろ過器の種類	浴槽の形式
	有・無	有・無	砂・カートリッジ 生物浄化	入替型 循環型・配管のみ循環型
	有・無	有・無	砂・カートリッジ 生物浄化	入替型 循環型・配管のみ循環型

## 循環型一般浴槽の管理

浴槽名		
換 水	・使用日ごと ・( )回/週	・使用日ごと ・( )回/週
集毛器の清掃	・使用日ごと ・( )回/週	・使用日ごと ・( )回/週
ろ過器の 逆洗浄・消毒	・1回/週以上 ・その他( )	・1回/週以上 ・その他( )
配管の消毒	・1回/週以上 ・その他( )	・1回/週以上 ・その他( )
残留塩素濃度 の測定	・( )回/日 ・その他( )	・( )回/日 ・その他( )
レジオネラ属 菌自主検査	・( )回/年	・( )回/年

## 機械浴槽の設備

浴槽名・設置場所等	浴槽の形態	ろ過器	浴槽の形式
	チェア・ストレッチャー	有・無	入替型 / 循環型
	チェア・ストレッチャー	有・無	入替型 / 循環型
	チェア・ストレッチャー	有・無	入替型 / 循環型
	チェア・ストレッチャー	有・無	入替型 / 循環型

## 循環型機械浴槽の管理

浴槽名		
換 水	・使用日ごと ・( )回/週	・使用日ごと ・( )回/週
ろ過器の 清掃・消毒	・使用日ごと ・1回/週以上 ・その他( )	・使用日ごと ・1回/週以上 ・その他( )
配管の消毒	・使用日ごと ・1回/週以上 ・その他( )	・使用日ごと ・1回/週以上 ・その他( )
残留塩素濃度 の測定	・( )回/日 ・その他( )	・( )回/日 ・その他( )
レジオネラ属 菌自主検査	・( )回/年	・( )回/年